

社会福祉法人 大和会  
特別養護老人ホーム つつじの丘  
リラクゼーションスペース

人と建築を結ぶ — ゆう建築設計の

# 時 空 読 本

No. 37  
2023. 8  
Ji kūdokuhon

働きたくなる特養のつくりかた

株式会社 ゆう建築設計

Tokyo Office 東京都港区芝大門1丁目4-8 浜松町清和ビル7F 〒105-0012  
TEL 03-6721-5430 FAX 03-6721-5431

Kyoto Office 京都市中京区堀川通錦小路上ル四坊堀川町617番地 〒604-8254  
TEL 075-801-0022 FAX 075-801-8290

E-Mail : office@eusekkei.co.jp

<https://www.eusekkei.co.jp/>



特集1

15人以下ユニットを選んだ理由

—新築の場合・改修の場合—

特集2

変わりゆく利用者を支える 見守りシステム

# 介護人材不足に立ち向かうために 建築設計者ができること

介護事業において人材不足が社会問題となっていますが、介護人材の確保・定着を図るため、事業者は介護職員の処遇改善について様々な取り組みをされています。特別養護老人ホームの建築設計においても、事業主とともに設計者が様々な工夫・アイデアを議論しています。

ゆー建築設計では、特養設計に際し、入居者への見守り・夜勤体制が組みやすい建築計画をはじめとし、入居者の要介護度に応じて、福祉機器の最新情報を把握しながら建築設計を行っています。例えば、介護がしやすいトイレや、幅広い要介護度に対応する機械浴槽の選定とそれに応じた浴室の計画、最新の見守りシステムや、労働環境改善のための職員のリフレッシュルームなど。

「働きたくなる特養のつくりかた」を考えることは、よりよい介護サービスを入居者に提供するための第一歩だと考えています。

夜勤が大変...  
負担が**軽**くなる建築プランは？

(→p.4 特集1-1)

認知症の入居者が**穏**やかに  
過ごせるユニット空間って？

(→p.5 特集1-2)

ナースコールがうまく使えない  
入居者をどう**見**守る？

(→p.8 特集2)

最新の介護**浴**室プランは？

(→p.11 最新事例)

ユニット化改修をしたいけれど

**夜**勤配置はどうする？

(→p.6 特集1-3)

**15**人以下ユニットを活用して  
どんな計画ができる？

(→p.4 特集1)

介護と休憩のメリハリをつけたいな...  
心身ともに**リ**フレッシュできる休憩室がほしい (→p.10 最新事例)

**見**守りシステムで  
介護はかわるの？

(→p.8 特集2)

# 働きたくなる特養のつくりかた

特集1

# 15人以下ユニットを選んだ理由

2021年の介護報酬改定では、ユニット型特別養護老人ホームにおいて1ユニットの定員を「おおむね10人以下」から「原則としておおむね10人以下とし、15人を超えないもの」となりました。それから約2年が経過し、ゆう建築設計においても、15人以下ユニットで構成する特別養護老人ホームの実例が現在工事進行中です。15人ユニットでは10人ユニットよりも介護者負担の増加についての不安の声も聞かれます。この特集1では、ユニット人数の変化に対し、「個別ケアの質の維持」と「介護者の負担軽減」を考えた「働きたくなる特養」計画事例を紹介します。

## 新築の場合

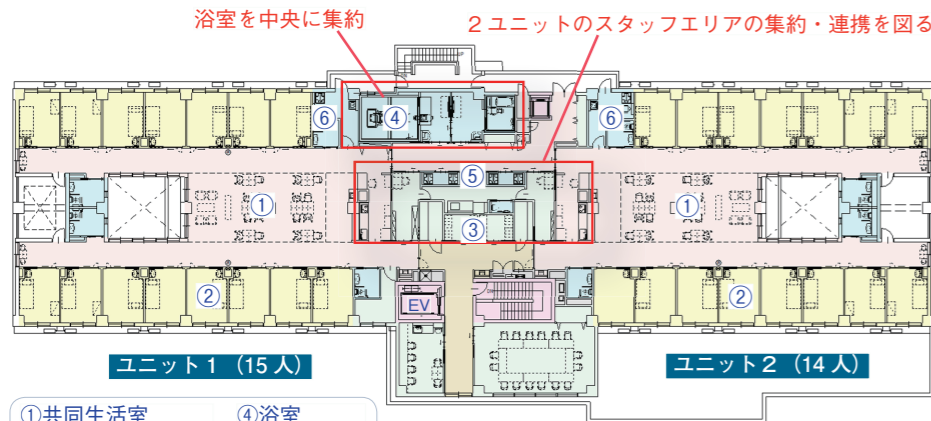
一級建築士 岩崎 直子



# 1 地域密着型特養29床で15人以下ユニットを採用



ハピネスさんあいⅡ 外観パース



ハピネスさんあいⅡ 特養フロア平面図

### 夜勤の負担軽減を図るフロア構成

社会福祉法人燦愛会は、大阪府吹田市に地域密着型特養 ハピネスさんあいⅡを建設中です。今回、近接地に新たに土地を取得することができ、地域密着型介護老人福祉施設の他、認知症対応型共同

生活介護、小規模多機能型居宅介護を併設した計画を進めています。

限られた敷地の中での、地域密着型特養の計画において、ショートステイユニットを増設することなく、29床でユニット構成を検討しました。仮に10人

ユニットを3ユニットで構成した場合、2フロアにまたがってユニットが配置される計画となります。そうすると各フロアに夜勤スタッフが1人ずつ配置されることとなり、特に経験の浅いスタッフにとっては、不安が大きい夜勤体制となります。そこで、ユニット定員の緩和により、29人を15人と14人の2ユニットとし、1フロアで計画することにしました。そうすることで1フロア2名での夜勤体制が組めることになり、スタッフ相互の協力ができ、経験の浅いスタッフにとっても心強い体制となります。

### 建設コスト・設備コストの削減

ユニットの浴室やキッチン、トイレの数については、2ユニットで計画するほうが3ユニットで整備するより面積の圧縮、設備コストの削減が図れ、建設コスト上メリットが大きいと言えます。本計画ではユニット浴室は2ユニットで共用とし、フロア中央に集約しました。ここでは座位浴と介護用個浴を配置し対応する入居者の要介護度に幅をもたせています。またスタッフが行き来できるように脱衣室の間に扉を設けています。仰臥位浴は使用頻度が低いので別フロアにて将来対応できるようにしました。

# 2 見守りシステムを活用し認知症入居者が穏やかに過ごせる居場所を



特養与謝の園 外観イメージ  
15人ユニットを6ユニット、  
デイを併設した4階建の計画

ユニット浴室に  
シャワー浴を設置



【アイソメ図】特養与謝の園 15人ユニットプラン(2ユニット)

### 従来型特養から15人ユニットへ

特別養護老人ホーム与謝の園(社会福祉法人 北星会)は京都府で1985年4月に開設された従来型特養(定員90名)です。法人施設の中で最も古い特養で、建物の老朽化に伴い、移転新築をすることとなりました。

京都府下では、特養はユニット型でかつ個室とすることが計画条件となっています。もともと従来型で運営していた与謝の園は、45人ずつ2つのグループで生活しておられました。ベテラン職員の方が多く在籍するこの特養で、特養の移転新築にあたり、15人ユニットに挑戦したいという法人様の思いがありました。従来型から15人ユニットに変わることについての職員の不安は聞かれましたが、従来型特養で培われたおおらかな人間関係(入居者同士、入居者と職員のなじみの関係)を維持できるような15人ユニットをめざして計画がスタートしました。

### 認知症入居者が穏やかに過ごすための15人ユニット空間

職員の皆さんと話したことからユニット空間の計画コンセプトがあります。それは「入居者の居場所が作りやすい」ことです。上記【アイソメ図】は与謝の園の15人ユニットプランです。1ユニットに、共同生活室を3箇所計画しています。15人がひとまとまりで過ごすのではなく、食事の場面ではキッチンを中心に共同生活室1・2に分かれて使う、くつろぎの時間や入浴の前後の時間には共同生活室3を利用するというように、入居者がユニット内に複数の居場所を見いだせるような空間としています。そして共同生活室1はあえてユニットの端において、建物外周にひろがる入居者が住み慣れた町の風景が見える配置とすることを考えました。

このユニットプランの床面積は約470㎡あります。これは当社の実績の中で10人ユニットにおける一人当たりの面

積と同程度です。15人ユニットの場合、1人当たりの設備コストは減少する上、建設コスト圧縮のためには本計画も更なる面積縮小は可能でしたが、入居者の生活空間としてのゆとりを維持することとしました。

このような溜まりや凸凹のある壁のプランは、認知症の入居者が落ち着いて過ごせる空間づくりのひとつである反面、見守りに対しては死角ができるということです。この不安に対し、カメラやインカムを利用した見守りシステム導入を検討しています。ナースコールが使えない入居者にも対応する仕組みです。(P.8 特集2参照)

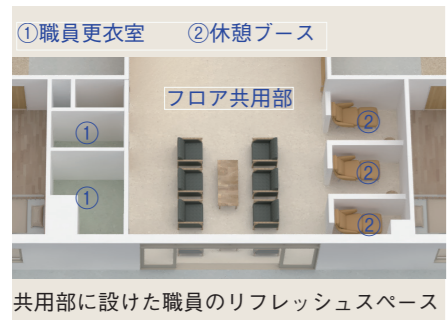
浴室や洗濯室はユニット専用として配置し、入居者・介護者の移動負担を減らすことを狙いとしています。入浴設備については、シャワー浴を導入し、入居者の身体的負荷の軽減と共に、職員の入浴介助における負担を軽減します。

## 介護職員のリフレッシュスペースの確保と感染対策を考える

与謝の園の設計は、まさに新型コロナウイルス感染症対策中に行なわれました。5類に移行した現在でも、万が一、感染症が発生した場合は、1ユニットまたは1フロア2ユニットが独立して機能するように計画しています。例えば入居者の洗濯物・廃棄物動線については、フロア担当職員の動線について検討した結果、1フロア2ユニット単位での独立性をもたせています。

職員更衣室は、従来であれば1階の管理部門に集中して設けますが、この計画では各フロアの共用部に職員更衣室・休憩スペースをもつ計画としました。職員は1階通用口から通勤し、直接持ち場となるユニットフロアの更衣室へ直行します。

ユニット外部のフロア共用部に、職員のリフレッシュスペースを設置しています。一旦介護の場から離れることで、心身ともにリフレッシュできる個のスペースがもてる空間構成にしています。



夜勤については、入居者90人に対して職員5名を配置することになります。与謝の園では3フロアにわたって夜勤職員配置を検討され、ユニットの上下階の連携を想定した見守りシステム、Wifi設備の整備を計画しています。

このように、介護者の負担軽減を検証するにあたり、日進月歩の福祉機器状況を把握することが重要です。

## 改修の場合

一級建築士 竹之内 啓孝



### 3 15人以下ユニットを利用し夜勤者を増やさずユニット化改修を実現!!!



スタッフルームから食堂兼共同生活室をも渡せるようにカウンターを設置

改修後共同生活室イメージパース

キャンベルホームは2002年4月に開設された特別養護老人ホームで、従来型多床室の特養80名+ショート20名の施設になります。本計画は、いわゆるユニット化改修でユニット型個室に改修するための工事になります。

改修の目的は主に2つあります。第一は、多床室を全室個室化し、入居者の個性やプライバシーを確保するためです。第二は、少人数のユニットに分かれた生活空間を提供することで、入居者一人ひとりの生活リズムを守り、自立した日常生活を送れるようにするためです。またユニット化により経営的に安定することになります。

通常ユニット化の改修工事は、4床室を個室に分ける際、廊下側の個室の採光が取れないためユニット化できないことが多いのですが、キャンベルホームは多床室でありながら各ベッドは建具で仕切られたいわゆる準個室であり、かつ各準個室が窓に面するように計画されていた

ためユニット化することが出来ました。

#### 日中の見守り

入居者は今の生活スタイルと同じく、食堂兼共同生活室で日中生活され、寝る時に居室に戻ります。一人で部屋に居るより、みんなと一緒にの方が生活に張りがあり楽しく生活できると考えています。スタッフは食堂兼共同生活室で入居者のそばで一緒に過ごし、入居者を見守っています。スタッフルームは食堂兼共同生活室を見渡せるように配置し、カウンターを設けることで事務作業を行う時でも食堂兼共同生活室を見守ることが出来るように計画しています。また、スタッフステーションは2つのユニットの間に配置するように計画しており、ユニット同士のスタッフの連携が取り易いように計画しています。

#### 15人以下ユニット採用の理由

計画当初は、すべてのユニットを15

人ユニットで考えましたが、実際に必要となる人員数が読めないため、法人として既に経験のある10人ユニットとし、夜勤者の数も現状と同じ5人となる2ユニット1グループで20人となる様に計画しました。

しかし、既存改修のためプラン上どうしてもショートが20床ある3階に10人ユニットを2つ作ることが出来ず、結果ショートを2床減らして8人ユニットを1つ作り、更に対となる12人ユニットを2階に作ることで2ユニット1グループで20人となる様に計画しました。このため15人以下ユニットを採用することになりました。

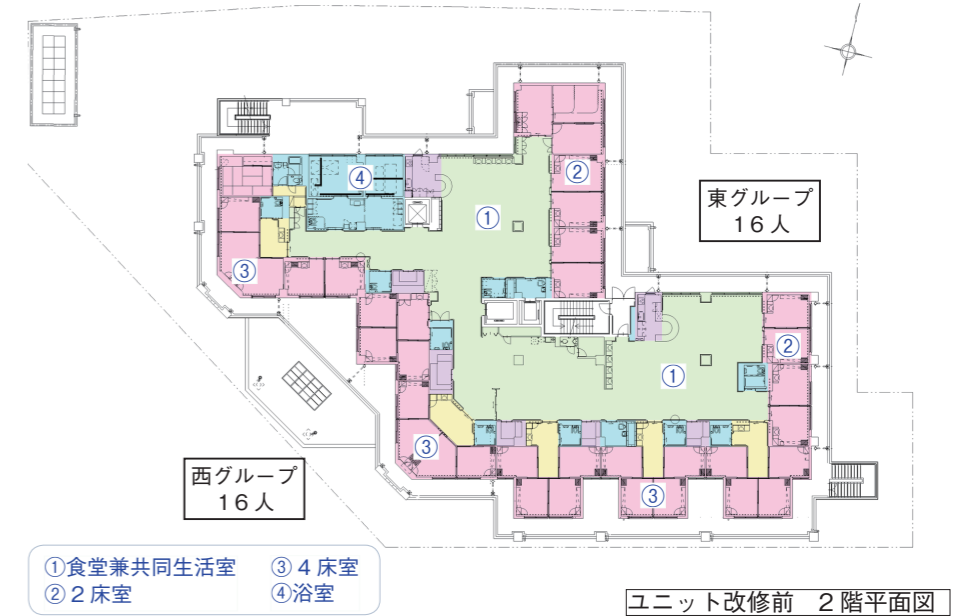
	西ユニット	中央ユニット	東ユニット
4階	ユニット 10人	ユニット 10人	ユニット 10人
3階	ユニット 10人	ユニット 8人	ユニット 10人
2階	ユニット 12人	ユニット 10人	ユニット 10人
1階	事務所 厨房		デイサービス

改修後ユニット構成模式図

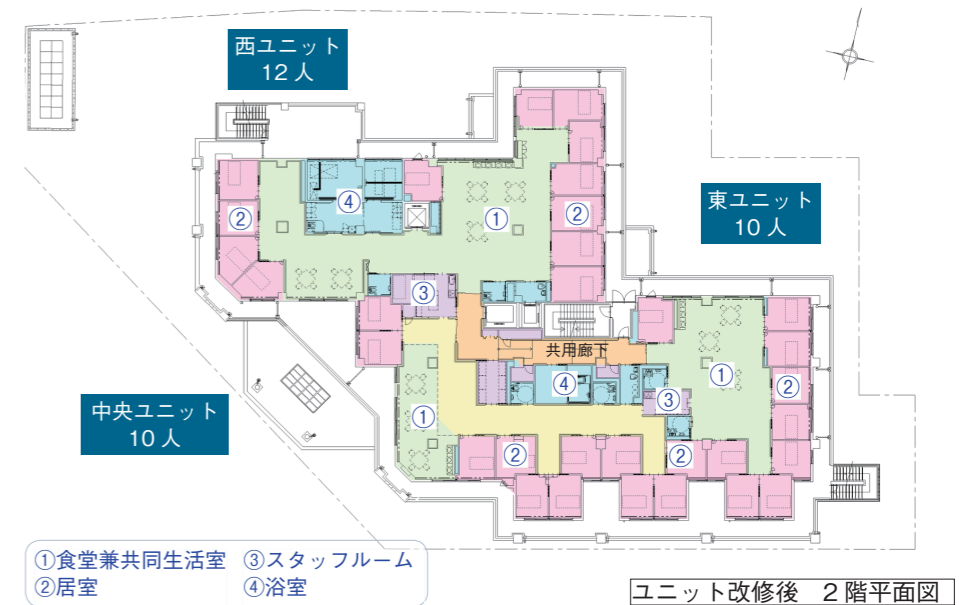
#### 夜間の見守り

夜間は定期巡回を6回行っています。定期巡回以外は、食堂兼共同生活室を見渡せるスタッフルームで事務作業を行いながら居室を見守ることになります。

本計画は、2ユニット1グループで20人になるように計画されています。ユニット型特養の夜勤の人員配置基準は20対1以上かつ2ユニットに1人配置が必要になります。特徴的なのは、2ユニット1グループの組み合わせ方が階を跨ぐところにあります。仮に上下階で夜勤の2ユニットが認められない場合、夜



ユニット改修前 2階平面図



ユニット改修後 2階平面図

勤者は4階に2人、3階に2人、2階に2人、計6人必要となり、夜勤者の数が従前より1人多くなり人員的に厳しくなるため、階を跨いで2ユニット1グループになるように行政と協議を重ねて計画を進めました。

#### 夜勤者の負担低減のため見守り機器を導入

夜勤者の負担低減のため、シート型の

生体センサーを導入することになりました。検討当初は、行動分析型カメラ+生体センサーの見守り機器と見守り機器メーカーが持つ呼出機能のみの簡易ナースコールを検討していましたが、職員のカメラに対するイメージが悪く、またコスト的、シート型生体センサーと従来型のナースコールの方が価格を抑える事ができたため、シート型生体センサーを導入することに決まりました。

# 変わりゆく利用者を支える見守りシステム

特養計画に際して、見守りシステムの導入は必須の検討事項になっています。様々なメーカーが自社の強みを生かした機器を開発しており、近年は非常に高性能で多機能な製品が展開されています。その一方で、選ぶ側としてはどの機器が最適なのか判断しづらい状況になっているとも言えます。特集2では、見守り機器に期待される役割と、大別した3種類の機器の特徴をそれぞれご説明します。

一級建築士 山本 晋輔



## ナースコールがうまく使えない入居者にも有効な見守り機器

### 見守り機器を活用すれば職員の介護業務負担も軽減できる

#### 高まる見守り介護の重要性

特養は入居者のプライバシーを重視する観点からユニット型が増え、個室化が進んでいます。誰の目にも晒されない環境は日常生活を送る上では安心が得られるかもしれませんが、安全性という点では無視できない課題があります。職員側からすると、個室はそのまま施設内の死角になってしまうということです。個室で事故が起きても、職員は容易に気づくことができません。

特養では個室と職員をつなぐものとして、呼出装置の設置が義務付けられています。いわゆるナースコール・ケアコールと言われるものですが、この機器をうまく使える人がいまの特養内でどれくらいいるでしょうか。認知症の人、転倒したときなど、必要な人が必要なときに使えない場合の方が多いのではないのでしょうか。それでも何かあった場合は施設側の責任が問われてしまいます。個室化が進む特養の介護現場では見守り自体のウェイトが非常に大きくなっているのが現状です。

#### 介護を変える見守りシステム

近年の見守り機器は、これまでと一線を画す非常に高性能なものになっており、介護負担の軽減にも大きく貢献しています。おおよそ共通した特徴は以下の通りです。

- ① 転倒に至る可能性がある起上り、端座位などの予兆動作を検知・通知することで転倒を予防できる。
- ② 各室ごとに入居者の状態に合わせた通知設定ができる。
- ③ 各職員がスマートフォン端末を持つことで居室の映像を手元で確認でき、訪室の必要性、優先順位の判断ができる。
- ④ 映像の記録により事故原因の把握、客観的な資料を用いた入居者家族への説明ができる。
- ⑤ 機器の精度向上による誤報の低減

#### 見守り機器を知る/選ぶ

多種多様な見守り機器がありますが、大きくは表のような3つのタイプに分かれると考えていいでしょう。似た機能を有していても、製品ごとに開発コンセプト

トが異なるため、その使い勝手には差異があります。最適なものを選ぶためには、製品ごとの特徴をよく把握し、そして介護業務をする上でいちばん大事にしたいことを明確にすることが大切です。

突発的な転倒事故への対応を重視するなら、行動検知(※1)に優れたAかBのタイプになります。身体的な自立度が高い入居者に適したタイプです。異常を検知してから職員に通知するまでの速度が非常に優れていて、同時といってもよい速度です。あらかじめ転倒リスクの高い入居者に対して、適切な通知設定を行えば事故を未然に防ぐことができます。とくにAタイプは個室全体を検知範囲としており、室内のどこで転倒しても職員に異常が通知されます。

日常的な体調管理を重視するなら、状



天井に設置された見守りセンサー本体

態検知(※2)に優れたCタイプになります。Cタイプはシート型でマットレスの下に敷く分、身体に近いところで呼吸、心拍のバイタル情報を精度高く収集できるところが長所です。十分な睡眠がとれているか、昼夜逆転していないかなど、睡眠データの収集も可能です。とくに看

取りの時に、こうした情報で本人の状態がわかれば、職員の心理的な負担も軽減できます。

シート型は行動検知ができるものの、検知から通知までに時間を要し、転倒防止対策としては弱く、身体的自立度が低い重度の方の見守りに適しています。

見守り機器それぞれに得手不得手な部分があります。入居者像や介護理念に合わせた機器を適切に選定することが重要です。詳細はゆう設計HP Design Studyに掲載していますのでご覧ください。

#### 見守り機器比較表

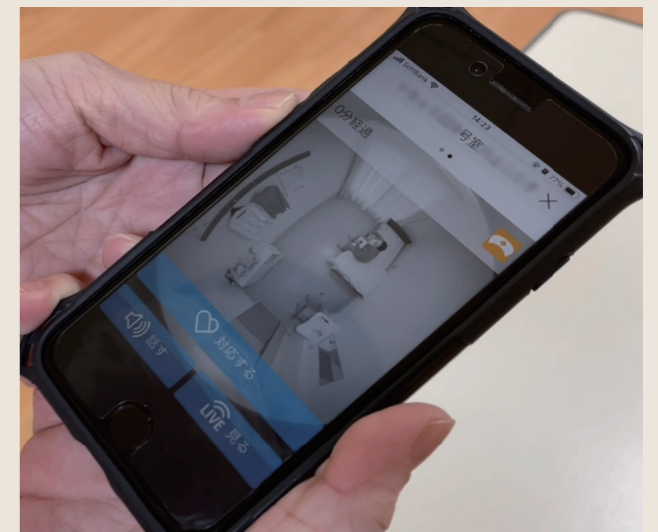
タイプ	A	B	C
主要機器	カメラ+生体センサー+呼出装置	カメラ	シート型生体センサー
特徴	転倒防止対応のオールインワン	転倒防止対応の行動検知特化タイプ	日常の体調管理に行動検知をプラス
製品の概要	居室全体を対象とした高性能なセンサーで危険予測、映像通知が可能。生体センサーをベッド真上に設置するため、非接触ながらも一定の信頼性がある。	見守り機器本体の移動が容易で、少ない台数からでも導入しやすい。サーバーが不要で見守り機器本体とスマートフォンがあれば、手軽に導入できる。	マットレス下に敷くセンサーでバイタル(呼吸、心拍)、睡眠状況を精度高く把握できる。入居者の姿勢も確認でき、カメラを導入すれば映像付の通知も可能。
カメラ性能	行動分析	○	
	映像のみ		○
標準検知範囲	室全体	○	
	ベッド+周囲	○	
	ベッドのみ		○
検知対象	行動検知※1	◎	○
	状態検知※2	△ (呼吸のみ)	×
転倒防止対策 検知～通知の速さ	◎	◎	△
対象者の 身体的自立度	軽度～中度	軽度～中度	中度～重度
参考コスト (工事費別)	約55万円/床	35万円/床	20万円/床

※1) 「行動検知」は、起き上がり、端座位、離床、転倒などの目視で確認できる入居者の状態を検知する。

※2) 「状態検知」は、心拍、呼吸、睡眠などの目視だけでは確認できない入居者の状態を検知する。



見守り機器のイメージ



スマートフォンで映像が確認できる

社会福祉法人 大和会 特別養護老人ホーム つつじの丘

◇計画概要

計画地は奈良県の山間部に位置する山添村です。周囲を山々に囲まれた緑豊かな環境でありながら、主要幹線道路である名阪国道のインターチェンジに近接しており、車によるアクセスも便利な場所になります。

奈良県において広域型特別養護老人ホームの整備が計画されたのを機に高齢者入所施設の整備を望んでいた山添村の要望を受けて社会福祉法人大和会が新しい特別養護老人ホームを開設しました。



外観写真

リフト導入を検討したプラン

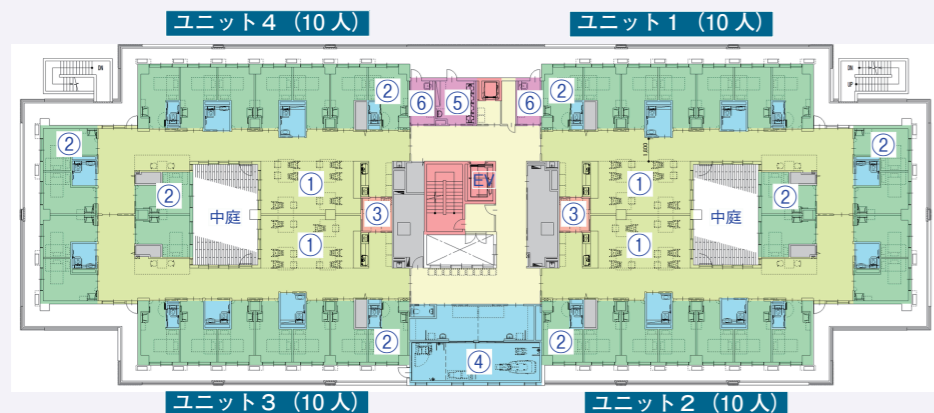
つつじの丘は、60名の特養にデイサービス併設した施設です。2階に4ユニット、3階に2ユニットを配置しています。ユニット型特養の計画に際し、介護者の腰痛予防に配慮し、リフトを使用する前提で計画しています。ユニットの最奥にある居室では天井走行リフトを設置しベッドからの移乗で使われます。共同生活室に一番近いトイレは、床走行リフトが使えるように広く設計しています。

4ユニットの中央の共用部分には浴室を集中配置しています。その浴室には、

幅広い要介護度に対応する介護浴槽を3種類設置しています。脱衣室も同様の考え方で様々な身体状況が利用することを想定し、据置型の天井走行リフトを設置しています。



据置型のリフトを採用



2階平面図(ユニット型特養のフロア)

スタッフがリフレッシュできる  
リラクゼーションルーム

介護職員はスタッフステーションや自身の車などで休憩しています、とよく耳にします。このように休憩室の整備が進んでない現状です。休憩室の設置は、介護職員に選ばれる施設づくりの大きな手掛かりになると考えられます。

介護職員が休憩中は業務から開放され1人でリラックスできるリラクゼーションルームで、心身の健全な状態を維持することではじめて、ご利用者に対し質の高いサービスを提供することが出来ると考えています。



スタッフのためのリラクゼーションルーム

- ①共同生活室
- ②居室
- ③スタッフルーム
- ④浴室
- ⑤洗濯室
- ⑥汚物処理室

社会福祉法人 熊谷福祉会 高齢者複合福祉施設  
特別養護老人ホーム はなぶさ苑

従来型とユニット型の併設

埼玉県熊谷市で地域に根ざした保健と福祉・介護の高齢者総合サービスを提供されてきた熊谷福祉会の特別養護老人ホーム「はなぶさ苑」は、築33年を迎え建物の更新をするにあたり、新たなサービスとして、サービス付き高齢者向け住宅を合築し、特別養護老人ホーム80床を増床することになりました。

1階は通所介護(デイサービス)、在宅介護支援事業所、厨房、管理諸室、2階はサービス付き高齢者向け住宅40室、3階は利用者ニーズに対応し、全室個室の従来型特別養護老人ホーム40床、4階はユニット型特別養護老人ホーム40床の計画となっています。



外観パース

隣り合ったユニットでの交流を可能とするためにユニットの間にセミパブリックスペースを設けています。夜間はこのスペースを介して二つのユニットの行き来が容易になっています。

共用トイレは感染対策に配慮し、外部に面する配置としています。状況に応じ窓を開けることが可能な計画としています。

夜勤の精神的負担を減らす  
1フロア4ユニットの建築計画

4階は1フロア4ユニットを配置し、夜勤2人体制を可能にしています。例えば、入居者に何か急変があり1人の夜勤

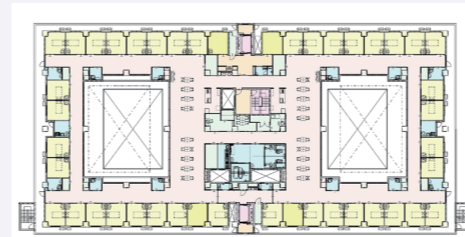
者がその入居者にかかりきりになっても、もう1人の夜勤者が一次的に見守りなどを手伝えることができます。また、経験豊富なベテラン職員と新人職員をタッグで組むことにより、新人職員の精神的な不安を和らげ、かつ効率的に新人職員へ業務の仕方を教育することができるようになります。

入浴介助時の入浴介助職員の  
連携に配慮した浴室計画

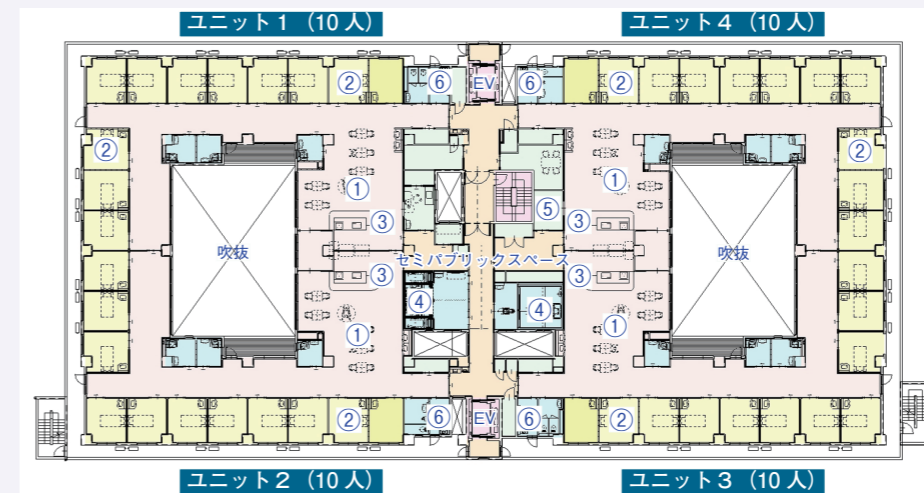
浴室は3・4階ともフロア中央に配置しています。浴室・脱衣室を1つに集約することで、入浴介助職員が脱衣室を通じて浴室を行き来出来るようにしています。4階のフロアについては4ユニットで3台の機械浴槽を共有しています。

要介護度3以上の入居者の身体状況に応じて、個浴(リフト浴)機械浴槽を組み合わせて選定することで、中央集中型浴室のメリットを生み出しています。

ゆう建築設計では最新の入浴装置についての比較・検討も行っています。詳しくはゆう設計HP Design Studyに掲載していますのでご覧ください。



3階平面図(全室個室の従来型特養のフロア)



4階平面図(ユニット型特養のフロア)

- ①共同生活室
- ②居室
- ③スタッフルーム
- ④浴室
- ⑤洗濯室
- ⑥汚物処理室

# ゆう建築設計の 高齢者施設

ホームページでも詳しくご紹介しています



サービス付き高齢者向け住宅  
聖アンナ館



千葉県

医療介護複合施設  
グランマーレせいほう



京都府

特別養護老人ホーム  
オービーホーム



兵庫県

特別養護老人ホーム  
菊水ビラ



滋賀県

デイサービス・グループホーム  
天橋園



京都府

介護付き有料老人ホーム  
ぴあはーと市が尾



神奈川県

サービス付き高齢者向け住宅  
ハーベストコート桜丘3号館



兵庫県

グループホーム  
しぎのさと恩智



大阪府

特別養護老人ホーム  
鳥羽ホーム



京都府

養護老人ホーム  
宇治明星園



京都府

サービス付き高齢者向け住宅  
やすらぎ



京都府

グループホーム  
ひだまりの家



兵庫県

京都認知症総合センター



京都府

特別養護老人ホーム  
第二竹の里ホーム



京都府

デイサービス  
ハピネスさんあい



大阪府

有料老人ホーム  
きょうらく



京都府

特別養護老人ホーム  
コモエスタにしわき



兵庫県

介護付有料老人ホーム  
ソナーレ祖師ヶ谷大蔵



東京都

養護老人ホーム  
健光園



京都府

特別養護老人ホーム  
YMBT



京都府

# ゆう建築設計の 障害者施設 / 医療・福祉施設

## 障害者施設



みさかえの園 めぐみの家 (入所) 長崎県



新みわ翠光園 (入所) 京都府



オレンジノート (就労B) 徳島県



ワンロック (GH) 徳島県



Leaves 練馬高野台 (通所) 東京都



ルキーナ・うだつ (入所) 徳島県



こころみ学園 たんばば棟 (入所) 栃木県



今川学園 (GH) 大阪府



ライフ・アシスト (通所) 京都府



はーもにー (通所) 群馬県



飛翔の里 第二生活の家 (入所) 岐阜県



こころみ学園 (日中活動棟) 栃木県

## 児童施設



今川学園保育所 大阪府



正雀ひかり園 大阪府



平安徳義会乳児院 京都府



風の子保育園 滋賀県

## 透析



ユウカリが丘・腎・内科クリニック 千葉県



文庫じんクリニック 神奈川県

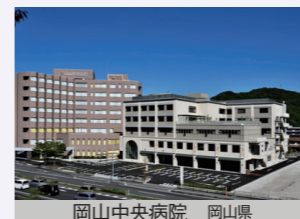


みらい内科クリニック 鳥取県

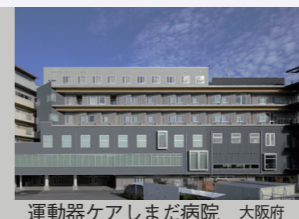


横田記念病院 富山県

## 病院



岡山中央病院 岡山県



運動器ケアしまだ病院 大阪府



神戸大山病院 兵庫県



堀ノ内病院 埼玉県

## 精神科病院



京都ならびがおか病院 京都府



綾瀬病院 東京都



そよかぜ病院 徳島県



ほのぼのホスピタル 徳島県

## 考えたことを広く伝達する

医療・高齢・障害の分野を問わず、設計を通して考えたことを広く知ってもらうことが大事だと私たちは考えています。プランからディテールまで、多くの方に知ってもらえれば、そのノウハウを使って、それぞれの分野に合った計画をより合理的に行うことができます。また、医療・高齢・障害にかかわる建築の質があり、患者さまや利用者さまの為になると信じています。そのような思いから全国の事業者の方へこの冊子をお送りしています。

日々の情報もホームページやSNSで発信していますので是非ご覧ください。



## お気軽にご相談ください

ご相談はお電話の他、メール、ホームページのお問い合わせフォームからも受付しております。お問い合わせには担当者より折り返しご連絡します。



Tokyo Office  
TEL 03-6721-5430

Kyoto Office  
TEL 075-801-0022

E-mail : [office@eusekkei.co.jp](mailto:office@eusekkei.co.jp)  
ホームページ: <https://www.eusekkei.co.jp>



## 無料オンラインセミナー

その他、多数セミナーを開催しております。HPよりお申込みいただきご視聴いただけます。

上昇していく工事費。そのなかでも事業をあきらめない！

## コストを意識した設計手法

—いま、利用者のためにできることは何か—

2022年8月にライブ配信したセミナーをご視聴いただけます。  
ご不明点・ご質問等ございましたらお気軽にお問い合わせください。

講師 岩崎 直子  
河井 美希

## 会場セミナー

## 働きたくなる特養のつくりかた

介護人材不足に立ち向かうために 建築設計者ができること

大阪会場 2023/9/2 (土) 14:00 ~ 17:30 (受付 13:30 ~)

東京会場 2023/9/9 (土) 14:00 ~ 17:30 (受付 13:30 ~)

講師 岩崎 直子  
竹之内 啓孝  
山本 晋輔

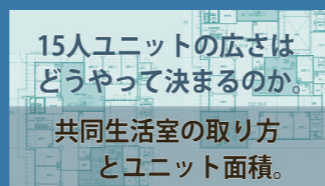
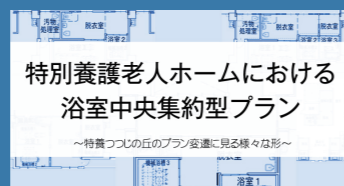
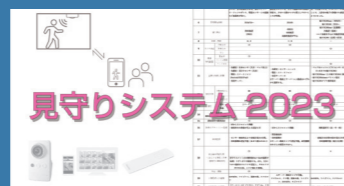
2日・9日  
定員  
30名

## Design Study

良い建築計画を考えるには、事業者、職員との議論、現地調査、様々な角度からの検討が必要です。ゆう建築設計のホームページでは設計コンセプトや作品紹介を通して検討結果を社会へ伝達しています。

一方、結論に至るまでの、設計を進める過程で幅広い検討が行われていますが皆さんへ伝えていない事項も多くあります。

Design Studyではこれら検討過程での様々な情報をお伝えしていますので是非ご覧ください。



<https://www.eusekkei.co.jp/designstudy>



## 時空読本



No.36 医療特集  
思いと建築  
2023年2月発行



No.35 コスト  
コストを意識した設計手法  
2022年7月発行



No.34 透析特集  
「利用者の建築」から「利用者+介護者の建築」へ  
2022年1月発行



No.33 精神科  
中規模病院の様々な建替手法  
「医療+介護」の時代へ  
医療法人が行なう高齢者の住まい  
2021年9月発行



No.32 高齢者特集  
建築から見た「すまいの特性」  
2021年3月発行



No.31 医療特集  
透析治療空間は かわります  
2021年2月発行

## 書籍案内



知的障害者施設  
計画と改修の手引き  
著者 砂山憲一  
単行本(ソフトカバー)160P  
出版社 学芸出版社  
発売日 2017/10/22  
本体価格 3500円+税



既刊の時空読本は以下のURLよりダウンロードできます  
<https://www.eusekkei.co.jp/jikuh>